

公大 そよかぜ

2026年6月発行
vol.56

News

新任部長のご挨拶



救命救急センター

救命救急センター ニシムラ テツロウ
西村 哲郎

このたび救命救急センター部長を拝命いたしました西村哲郎です。これまで私は、救急医学、重症熱傷、心肺蘇生、集中治療を専門に、初期診療から手術、重症患者さんの全身管理まで幅広く携わってまいりました。当センターは、救急科専門医を中心に、院内のさまざまな専門診療科と力を合わせながら、24時間体制で高度な救急医療を提供していること

が大きな強みです。今後この強みを生かし、地域の医療機関との連携をさらに深めるとともに、救急・災害医療の充実、人材育成、臨床に根ざした研究の推進に取り組んでまいります。患者さんとご家族に安心していただける医療を目指し、地域に信頼される診療科として一層努めてまいります。

放射線科

放射線科 ヤマモト アキラ
山本 晃

このたび放射線科部長を拝命いたしました、山本晃と申します。当科では、画像診断、**IVR治療**、核医学治療のそれぞれの分野において、専門の医師が協力しながら診療にあたっています。

画像診断はCTやMRIなどを使って体の中を詳しく調べ、病気の早期発見や正確な診断に役立てる部門です。検査結果をもとに、主治医がより適切な治療方針を決められるよう支えています。

IVR治療では、国内有数の治療実績を有する肝がんに対する**TACE**、門脈圧亢進症に対する**TIPS**（経頸静脈的肝内門脈大循環シャント）、胃静脈瘤や肝性脳症に対する**BRTO**、肺がんや腎がんに対する**RFA**、大動脈瘤に対する**EVAR**（ステントグラフィト内挿術）など、多彩で高度な治療を行っています。さらに核医学分野では、PET/CTによる診断に加え、甲状腺がんに対する**放射性ヨード治療**や、最新の**PRRT**（ペプチド受容体放射性核種療法）にも対応しております。今後患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して治療を受けていただける診療科を目指して努めてまいります。



用語解説

IVR治療

X線やCTで体内を確認しながら、カテーテルなどを用いて行う低侵襲治療

TIPS

肝臓内で血流のバイパス（シャント）を作り、門脈圧を下げる治療

RFA(ラジオ波焼灼療法)

腫瘍に針を刺し、熱で焼いて壊死させる治療

放射性ヨード治療

放射性ヨードを含むカプセルを服用し、体内から甲状腺などを治療する方法

TACE(肝動脈化学塞栓術)

肝腫瘍に対し、抗がん剤を動脈から注入し血流を遮断して治療する方法

BRTO(バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術)

静脈瘤に対し、血流を一時的に遮断して薬剤で閉塞する治療

EVAR

カテーテルで人工血管を留置し、大動脈瘤の破裂を防ぐ治療

PRRT

腫瘍細胞表面の受容体に結合する薬剤に放射性物質を結合させ、体内から腫瘍を狙って照射する治療法。



集中治療センターって

何やってるところ？



集中治療センター長 藤井 弘通

当院では2022年10月に集中治療センターが開設され、3年半で約3400人の患者さんが入室されました。

当センターは、集中治療室（ICU）と心血管疾患集中治療室（CCU）を兼ね備えています。簡単に言えば、外傷以外の疾患で命に関わるような重症状態の患者さんや、大きな手術後の患者さん（心臓血管外科、脳神経外科、循環器内科など）を、24時間体制で血圧や呼吸状態などを常にモニターしながら治療する特別な場所です。

人工呼吸器や新型コロナウイルスで有名になったECMO（エクモ）などの機械的サポートを行うことや、気管切開などの小さな手術もできます。医師が常駐し、看護師1人で2人までの患者さんを担当し（一般病棟では1人で7人までの患者さんを担当します）、患者さんをしっかり見守りながら、より手厚く治療やケアができる治療室です。



開設時のメディアによる取材

AYA世代の がん患者さんへの 支援について

乳腺外科

モリサキ タマミ
森崎 珠実

AYA世代とは、思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult）を指し、

一般に15歳から39歳頃までの世代とされています。この世代のがん患者さんは、治療と同時に、就学・就労、妊よう性、恋愛・結婚、

出産・育児、経済的自立など、人生の大切な節目に向き合っていることが少なくありません。そのため、病気そのものへの治療に加え、一人ひとりの生活背景や将来を見据えた支援が重要となります。

当院では、AYA世代の患者さんを多く診療する乳腺外科が中心となり、院内のAYA世代支援体制の整備を進めています。乳腺外科では、手術や薬物療法だけでなく、

整容性への配慮、妊よう性温存への対応、治療と仕事の両立支援など、AYA世代に特有の課題に日常診療のなかで継続して向き合ってきました。こうした経験をもとに、女性

診療科、神経精神科、看護部、医療ソーシャルワーカー、薬剤部、患者総合支援センターなど多職種と連携

し、患者さんを総合的に支える体制

づくりを進めています。具体的には、妊よう性、学業や仕事、心理面、経済面などについて早期に確認できる共通の支援項目を整備し、必要な支援へ速やかにつながる仕組みの構築に取り組んでいます。

また、妊よう性温存に関する迅速な相談体制、就学・就労支援、信頼できる情報提供、同じ経験を持つ患者さん同士が支え合うピアサポートの充実にも力を入れています。

AYA世代のがん医療では、治療の成功だけでなく、その後の人生を見据えた支援が欠かせません。

当院では、治療後も長期的な視点で患者さんを見守り、生活の質（QOL）を大切にしながら、その人らしい生活と治療の両立を支える医療を目指しています。乳腺外科で培ってきたAYA世代支援の取り組みを院内全体へ広げ、がん種を問わず、若い世代の患者さん一人ひとりに寄り添う支援を今後も進めてまいります。



緩和ケアチームの紹介をします

その人らしく、 過ごすために、 ともに考え 支えます

緩和ケア認定看護師
池上里美
イノカミ サトミ

緩和ケアとは、病気に伴う痛みや息苦しさ、気持ちのつらさをやわらげ、生活の質（QOL）を大切にしながら、その人らしい生活を支えるケアです。

緩和ケアと聞くと、終末期というイメージを持たれる患者さんやご家族の方もいらっしゃると思いますが、緩和ケアは治療の最終段階だけでなく、診断されたときから受けることができるケアです。

当院の緩和ケアチームは、医師・看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、患者さんとご家族の不安や悩みに寄り添いながら支援しています。症状の緩和に加え、不安や気持ちの揺れへのケア、ご家族への支援も大切にしています。



また、これからの治療や療養場所について一緒に考え、「どのように過ごしたいか」「何を大切にしたいか」を大事にした意思決定を支えています。

入院中の患者さんはもちろん、外来通院中の患者さん、ご家族からのご相談も受けしております。「こんなことを相談していいのかな」と思うことでも、どうぞお気軽に主治医や看護師にお声かけください。

information

デジタルサイネージを設置しました

総務企画課

当院では、患者さんにより分かりやすく、快適に情報をご覧いただけるよう、院内に新しくデジタルサイネージを設置いたしました。各診療科の紹介、地域住民向け公開講座のご案内、院内サービスのご紹介など、皆さまのお役に立つ内容を発信してまいります。これまでよりも見やすく、理解しやすい形で情報をご確認いただけますので、ぜひご来院の際にはお近くのデジタルサイネージをご覧ください。患者さんに寄り添った情報提供を目指し、より快適に過ごしていただける環境づくりを進めてまいります。

1階

自動精算機前



計算受付前



エレベータ前



耳の聞こえにくい方はお申し出ください。

黄色 水色 等のファイルは

2025年8月18日から
AI電話
050-1726-3102

土曜日の手術実施で、 より受け入れやすい体制へ

中央手術部

サダ リョウジ
定 亮志

土曜日手術のスケジュールを決定する手術委員会にて

医療体制の充実と、
手術待ち期間の短縮を目指して

当院では、地域の基幹病院として、良質な医療を安定的かつ効率的に提供することを使命としております。多くの患者さんにご来院いただく中で、手術までの待機期間が長くなることや、平日の日程調整が困難なケースも課題となっております。そこで、医療資源を最大限に活用し、より多くの患者さんを受け入れるため、2024年度より「月1回の土曜日手術」を実施しております。

実施で見えてきた成果

この取り組みは、単に選択肢を増やすだけでなく、病院全体の診療機能を高めることにも繋がっています。土曜日に手術枠を設けることで、平日の手術スケジュール過密化が緩和され、緊急の手術や検査にも柔軟に対応できる体制が整いつつあります。結果として、患者さんをお待たせする期間の短縮にも寄与しており、「予定通りに治療が進んで助かった」というお声もいただいております。

現役世代や

ご家族の負担軽減にも

患者さんの利便性向上も大きな目的の一つです。「平日は仕事への影響が心配」という現役世代の方や、「家族が付き添いやすい日程がいい」というご希望にも、土曜日手術はお応えできる選択肢です。効率的な治療計画は、早期の社会復帰や、生活リズムの安定にも繋がります。

まずは

主治医にご相談ください

土曜日の手術は、スタッフの配置や安全管理体制を十分に整えた上で実施しております。対象となる疾患や術式には適応がございますので、「早く手術を受けたい」「土曜日の枠を利用したい」とお考えの患者さんは、外来診察時に主治医までご相談ください。

当院はこれからも、限られた医療資源を有効に活用し、患者さんが必要とする時に、適切な医療を提供できるよう努めてまいります。

